

I 令和3年度

社会福祉法人野栄福社会 事業報告

概要

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の第5波、第6波への対策として法人研修会、青空まつり、秋まつりは中止した。第6波のオミクロン株の感染力は高く、のさか学園では2月中旬から感染が広がり始め、3月末の終息までに利用者・職員併せて45名のクラスターとなった。その他にも、すてっぷ、放課後等デイサービスでも利用児者や職員の感染があり休園した。

施設整備関係は、しおさいホーム増築工事が令和2年度補正予算に係る社会福祉施設等施設整備費補助金の内示を受け、4月に入札公告、5月末に一般競争入札による入札を実施して、6月に工事請負契約を結び、令和4年2月末までの工期で工事を実施した。居室が増えたことによりほとんどの利用者が個室となり居住環境が向上し、感染症対策がしやすくなった。

1. 理事会の開催

開催日	成立議案
4月21日	しおさいホーム増築工事に係る入札参加業者の承認 評議員選任・解任委員の選任
5月28日	令和2年度事業報告の承認及び計算書類の承認 令和3年度社会福祉充実計画の承認 評議員候補者、理事候補者、監事候補者の推薦案の承認 しおさいホーム増築工事に係る借入の承認 定時評議員会の開催を承認
6月4日	しおさいホーム増築工事請負契約の承認
6月16日	理事長の選任 規程の一部改正を承認 令和4年度社会福祉施設等施設整備費補助金申請の承認
11月15日	規程の一部改正を承認 のさか学園中央棟改修工事に係る設計監理請負契約の承認
令和4年 1月18日	規程の一部改正を承認
3月29日	書面議決 規程の一部改正を承認 令和3年度第1次補正予算案の承認 令和4年度事業計画案及び収支予算案の承認 評議員会の開催を承認

2. 評議員会の開催

開催日	成立議案
6月16日	定款変更の承認 令和2年度会計に係る計算書類及び財産目録の承認 令和3年度社会福祉充実計画の承認 理事、監事の選任
令和4年 4月1日	令和4年度事業計画案の承認 令和4年度収支予算案の承認

3. 監事会の開催

開催日	監査内容
5月19日	令和2年度事業報告・計算書類及び法人運営について (指摘事項なし)
11月15日	令和3年度中間監査

4. 評議員選任・解任委員会の開催

開催日	成立議案
6月16日	評議員の選任

Ⅱ 障害者支援施設 のさか学園

概要

(1) 施設運営

新型コロナウイルス感染症対策を継続し、利用者さんの不安と不満が大きくなるよう考え、支援を提供することに力を注いだ。緊急事態宣言中やまん延防止等重点措置の間、利用者さんや保護者の皆様には面会や帰省の自粛、施設行事は規模縮小での実施、外部行事は中止の相次ぐ中での運営となったが、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業により感染隔離棟マハロも完成し、発熱者の対応やご家族の面会など今まで以上に安全に実施することができるようになった。また、12月には県内、近隣地域での感染者数も減少したことから希望される利用者さんは2年ぶりに帰宅し、新年をご自宅で迎えられた。しかし、2月に新型コロナウイルス感染症施設内クラスターが発生し、多くの利用者さん、ご家族をはじめ関係する方々に多大なる心配をおかけすることとなった。クラスターとなってから保健所や医療機関の指導の下、対策に取り組んだ結果、感染エリアを男性寮に抑えることができたが、2月17日に最初の罹患者が確認されてから終息宣言をした4月1日までに、男性利用者さん35名、職員8名の43名が罹患するクラスターとなった。

住環境向上計画の第4期として、男性寮中央棟改修工事について令和4年度の着工を目指し協議を進めた。併せて今回の事業について令和4年度社会福祉施設等施設整備費国庫補助事業へ感染症対策における個室化を目指すものとして申請した。

人材確保、育成については慢性的な福祉人材不足であり年度途中の採用はなかったが、次年度のさか学園配属予定の新卒者を3名採用することができた。育成に関しては新型コロナウイルス感染症により外部研修等、計画していた研修がリモート開催や中止などコロナ禍での職員育成に十分な成果が得られなかった。

(2) 利用者の状況

施設入所支援では男性利用者さん1名が新たにのさか学園の利用を開始している。また、袖ヶ浦福祉センター更生園利用中の男性利用者さんについて、のさか学園への移行に向け体験利用を進めた。次年度4月より長期のショートステイ利用が決まり、入所定員に空きが生まれた時点で施設入所支援の利用に切り替え支援することとした。12月に男性利用者さんが扉に右手小指を挟み右手第五指開放骨折を負わせてしまう事故が発生した。再発防止に向け、リスクマネジメント委員会を中心に施設内の危険箇所再調査を行い改善を行った。

高齢期支援、行動障害のある方への支援、医療との連携が必要な方への支援等、求められる機能やサービスに対応出来るよう、職員の意識改革や更なるスキルアップ、併せて利用者さんの状況や状態に合わせた施設環境の改善が必要であると強く感じた。

Ⅲ 障害者支援施設 しおさいホーム

概要

(1) 運営

令和3年度も新型コロナウイルス感染症の第5波、第6波への対策に終始した一年だった。特に第6波のオミクロン株の感染力は高く、職員が家庭内感染で陽性や濃厚接触者となり自宅待機となったケースが数名あった。幸い施設内へは持ち込まず利用者や他の職員への感染拡大はなかった。

また、年間を通して保護者参加の行事は取りやめ、規模を縮小して園内行事として実施した。利用者の帰省や週末・月末等の一時帰宅は原則中止したが、本人や家族から強い希望があった場合は個別の事情によって対応した。短期入所や日中一時支援は本人の体調を確認して受け入れた。

国の社会福祉施設整備等整備費補助金を活用して、7月から園庭で園舎の増築工事がはじまった。令和4年2月末迄の工期だったが、この期間は工事現場に入らないための安全対策と、コロナ感染症対策のため外出等の活動の制限もしたので園舎内での生活がほとんどとなり、利用者・職員ともにストレスがたまった。2月末には予定どおり完成・引き渡しとなり、新棟の名称を「なごみ棟」とし、3月下旬から住み始めた。居室が27室増え、約9割の利用者が個室となってプライベートな空間を確保でき、落ち着いた生活ができるようになったとともに、感染症対策がしやすくなった。

(2) 利用者関係

利用者さんの体力や年齢に応じた日常を送って頂く為に午前中は作業体制、午後は嚙下体操等のリハビリや余暇活動を行い、日中活動の適宜見直しをしながら支援の充実を図った。

6月に70代女性が心臓の機能低下、徐脈にてペースメーカー適応と診断されたが、ご家族の意向もあり処置はしないこととなり、施設での生活は困難となったため7月に療養型病院へ転院（退所）となった。10月に60代男性、12月に70代男性、2月に70代女性が肺炎によって入院したが、痰吸引を行わないと生命維持が難しいとのことで療養型病院へ転院（退所）している。50代男性は12月頃から腹水が溜まるようになり頻繁に内科通院していた。1月に通院した際に病院で急変し、肺炎にて翌日に亡くなった。その他、難病の水疱症によって入院される方や誤嚥性肺炎、蜂窩織炎などで入院される方が多数出て、医療との連携、療養型病院への移行をどのように進めるか、また、そういった方達を施設でどう支援していくのか考えさせられる1年であった。11月に男性1名、3月に男性2名、女性1名が他法人の入所施設やグループホームより入所となったが、入院の件数、期間が長く、定員に満たない状況が続いたことから大幅な収入減となり、経営的には厳しい年となった。

新型コロナウイルス感染症の影響によりイベントの中止や縮小、保護者等来園者の制限、外出の制限がされたこと、また、増築によって作業体制が取れなかったり園庭を使用するレクリエーション等ができなくなったことで昨年度以上に利用者さんが窮屈な生活を強いられた中、少しでも潤いのある生活を送れるよう一人ひとりに寄り添い、楽しく過ごすために支援の工夫をしながら共に過ごした。

施設入所支援と多機能型事業所の生活介護を利用される方や、短期入所事業、他法人事業所との併用等、利用形態が様々な方が増え、新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら、各事業所間の連絡・連携の強化と家族との調整を図り、それぞれの生活を支えた。

IV 多機能型事業所 すてっぷ

概要

昨年同様、新型コロナウイルスのために青空まつりと秋まつりとも園内行事に切り替えて行うこととなった。2月には、2名の利用者さんが新型コロナウイルスの陽性となり、10日間の利用を控えて頂くこととなった。また、濃厚接触者の利用者さん7名は、7日間の利用を控えて頂き、濃厚接触者の職員1名を5日間の出勤停止とした。それに伴い、利用を控える利用者も数名出て、2月の利用率は低くなった。感染対策として、館内の消毒や換気をまめに行うと共に利用者さんの手洗い、アルコール消毒を徹底することでクラスターとならなかった。食事の時間については、作業室を使用することで利用者さんを半分に分けるなどの密にならない対策をした。また、のさか学園でクラスターが発生したため、感染対策として職員については、N-95マスク、防護服を着用して感染対策に努めた。この間、昼食をのさか学園で作れなかったので、1ヶ月間弁当で対応する事となった。

法令に基づき全職員対象にストレスチェックを実施した。事業所診断として、ほとんどの職員のストレスは低かった。

V 共同生活援助事業

グループホーム野栄(介護サービス包括型)

概要

つばさ、のそみ、わかば、いずみ、しおんの5棟の共同生活住居にて、男性16名、女性4名、計20名の利用者さんの支援を行った。日中生活を充実させるため、多機能型事業所すてっぷと連携し支援をした。世話人、支援員とのコミュニケーションを重視し、特に自閉スペクトラム症の方のパニック対応等、困難事例について助言した。また支援会議等にも参加協力を行い、密な情報交換も行った。利用者さんの地域生活が、より充実したものとなるように取り組んだ。

グループホームしおさい(介護サービス包括型)

概要

桜(男性4名)、ひまわり(女性4名)の2住居で利用者さんの地域生活支援を行い、日中活動の場として、桜の入居者さんは1名がしおさいホームの生活介護を利用し、2名が多機能型事業所すてっぷを利用している。1名は週5日介護保険制度を利用し通所生活介護事業所に通った。ひまわりの入居者さんはしおさいホームの生活介護を利用した。入居者一人ひとりが自分の考えで生活できるよう意思決定支援を行いながら、地域社会を構成する一員としての生活を支え、その中で安心して暮らせるよう取り組んだ。

VI 放課後等デイサービス

どんぐりクラブ

どんぐりキッズ

概要

学校に通学する障がいやつまづきのある児童に対し、放課後や土曜祝日、夏休み等の長期休暇、短縮日課、新型コロナウイルスの感染状況による休校日に合わせて利用を受け入れた。

子どもが生き生きと楽しく安心して過ごせる地域の居場所、親以外の理解者や仲間との出会いの場、さまざまな体験・経験ができる場になるよう努めた。子どもの主体性を大切にし、社会性及び創造性の向上につながるよう遊びへの支援、基本的な生活習慣の確立、自立の促進、集団生活へ適応できるよう発達段階に応じて支援した。

学校公開については新型コロナウイルス流行の為、実施が無く中止だった。緊急性のある子どもには関係者会議を行い、関係機関との情報共有を図った。

新型コロナウイルス感染症対策として、テーブルにパーテーションの設置、常にスタッフはマスク着用し、食事、排泄介助など飛沫のかかる状況ではゴーグルと手袋の着用をして、受け入れをした。きょうだい学校などで濃厚接触者となり学校を休まなければならない児童でニーズがあった場合は1日受け入れを行った。普段の活動では近隣の公園遊びや30分程度のドライブなどを実施し活動の変化を図った。又、月に1回程度のイベントを取り入れ。小学生・中高生対象の遠足、季節行事や保護者参加行事を行った。法人行事の青空まつり、秋まつりは新型コロナウイルス流行の為中止となり、野栄福祉会の中での交流を図る機会を作ることではできなかった。

医療的ケアが必要な児童や感染症に留意しなければならない方は複数人が利用自粛があり1年間通して利用が無かった。また、新型コロナウイルスの感染が心配で利用をキャンセルする方が多数いた。

利用のニーズがあるが受け入れできていない児童が多数おり、待機していただいた。